

「根本的な考えの間違いに気づく」

やがて根本的な考えの間違いに気づくときがきました。同期入社の人たちがどんどん課長になり、私より遅れて課長代理になった人が課長になっても、私は課長になれないのです。上司からは脱皮しろとか、もっとタフになれとか、いろいろ言われ過ぎるほどに言われるのですが、どうしようもないのです。

私は神経質症で二カ月半余り会社を休んだのが妨げになっていくとか、私の人間性が誤解され、悪意で見られているからではないだろうかとか考えたりして、人事部を恨んだり、上司を恨んだりのみじめな気持ちでした。ただ、この当時、それにとらわれて、また極端に落ち込んで動けなくなるようにまでならなかったのは、ある程度、森田的な生活が身についていたために、つらいながらも、なすべきことは、一生懸命にやったからだと思います。

行動の大切さは身にしてみましたから、仕事を休んだり、一途に思いつめて沈み込んでじっとしていたりすることはありませんでした。また余暇などで生活の場が拡がり、仕事で満たされない気持ちを余暇活動で補ったりするゆとりも出てきていました。当時、カブスカウト活動にはかなり熱心で、そのために月一回の集談会にも、行事がかさなつて出席できなくなっていました。スカウト活動では、人の世話をし、人を動かす勉強にもなり、社会的には少しはお役に立てたと思っています。

ただし、このためもあり、仕事よりも余暇活動の方により生きがいを見出し、つらい仕事面での現実から逃避していた面があり、バランスが逆転して、仕事面にマイナスの循環が生じていたように思います。

さて、同期の人たちの課長への昇進から取り残されてゆき、昇進シーズンのたびに「今度もだめだったか」という挫折感を何度か味わううちに、「それでも、やっていかざるを得ないのだ。ええかつこうばかりしては、生きてはいけないのだ。家族を養い、守り育てるには、みじめな思いや、屈辱感にも耐えていかねばならないのだ」ということを、知るようになりました。生きることには、甘えが許されないと感ずるようになりました。

きつと昔、高良興生院で丸山先生に教わった「碎啄同時（ひよこが卵からかえる時、卵のからの内側からつつくのと、親鶏が外からつつくのとが同時であるという自然の摂理）」ということばどおり、機が熟してきたのだと思います。そして今度は、もう一度徹底的に森田を学んで自分のバックボーンとしたいと願うようになりました。

（続）